研究所だより

第４９７号
２０２６年　３月２３日
発行：土佐清水市教育研究所
ＴＥＬ　８２－３０１５

“ 白い光の中に　山並みは萌えて　遥かな空の果てまでも　君は飛び立つ

限りなく青い空に　心ふるわせ　自由を駆ける鳥よ　ふり返ることもせず

勇気を翼にこめて希望の風に乗り　この広い大空に夢をたくして ”

『 旅立ちの日に 』

1991年（平成3年）埼玉県秩父市立影森中学校の教員によって作られた合唱曲
〔 作詞：小嶋　登（校長）　作曲：坂本浩美（音楽教諭）〕

“ 笑い声は時代を超え、想像力は年を取らない。そして、夢は永遠のものだ ” ウォルト・ディズニー

～希望に満ちた春がやって来ました！～

桜の開花便りに心弾ませるころとなりました。

“光陰矢のごとし”とはよく言ったもので、過ぎ去ってみれば1年というのは本当に早いですね。この1年間の学校経営、学級経営、教科経営等本当に御苦労様でした。

さて、1876年（明治9年）創立以来、地域に見守られて歴史と伝統を築き、大勢の子どもたちの成長を見守り149年という長き歴史に幕を閉じる足摺岬小学校。地域資源を活かし、豊かな自然と歴史を学ぶふるさと教育を推進し、伝統文化の継承や環境保全活動等に取り組んできましたが、児童数の減少により今年度をもってこれらの教育活動に終止符を打ちます。母校を去る子どもたちには、これまで培ってきた良き伝統と誇りを持ち、清水小学校の仲間とともに歩んでほしいと思います。

この春をもって退職される先生方、長い教員生活のなかで多くの子どもたちを育てられてきたことでしょう。今春からは自由人となります。健康に留意しながら、第二の人生を謳歌してください。益々の御活躍と御健勝を心からお祈りいたします。

現任校を離れ新しい職場へ赴かれる先生方、在任中は子どもたちのために、また清水の教育の発展・向上のために御尽力を賜りまして、本当にありがとうございました。新任地での御活躍を期待しています。

引き続き清水市内小中学校に在職される先生方、この1年間、様々な事柄があったことでしょう。次年度につながる成果や課題も明らかになったことと思います。実践を積み重ねたなかでの成果と課題です。次年度もそれらを活かしながら、教育の魅力化推進事業のテーマであります「教育の魅力化で土佐清水市の豊かな未来を創る」を合言葉に、土佐清水市の未来を創造する人材を育成するために御尽力いただけることを期待しています。

月刊　日本教育　令和8年　2･3月号

円滑な学級経営の土台
「クラス替え・席替え」

加藤（かとう） 昌男（まさお）（元NHKアナウンサー）

◈クラス分け作業、大詰め

「一年生になったら友だち何人できるかな」と子どもたちが胸を弾ませるこの季節、新入生を迎える小中学校ではクラス分けの作業が大詰めを迎えます。

作業は2月半ばに始まります。まず学級担任や学年主任が個々の児童に関する情報を、守秘義務を確認した上で聴き取ります。

クラス分けで重要なのは、偏りのない学級編成です。学力レベルをそろえるために学習評定などをもとに均等化を図ります。運動が得意な子や活発な子だけが集中しないように調整します。子ども同士のトラブルを避ける細かい配慮も求められます。

クラス分けの作業は新学年を受け持つ先生たちが合議で進め、最終決定は学校長が行って4月の新学期に備えます。

◈「上限35人」の学級規模

小中学校の学級編成は「義務教育標準法」に基づいて行われます。法律が制定された昭和33年、1学級の児童生徒数は「上限55人」と定められ、以後「45人」「40人」と少人数化が進み、昨年（令和7年）には全ての小学校で「35人学級」が実現しました。中学校でも順次少人数化が進められています。

「35人学級」（実際には1教室に30人前後）となった今は、子どもたちの距離は縮まり、グループを組んでの話し合いもでき、担任も一人一人に目配りできる状態となっています。

◈年に1回、学級をリセット

学級を組み替える「クラス替え」は、以前は“持ち上がり”も含め「2年に一度」が一般的でした。最近は「年に一度」実施する学校が増えています。

このため、4月に新しい学年の教室に入るとクラスメートの多くが入れ替わり、担任の先生も代わった状態で新学年がスタートすることになります。

学級がリセットされると教室の雰囲気は一変します。メリットとしては、フレッシュな気持ちで学習ができる、新しい友だちができて人間関係が広がる、前のクラスではできなかった役割や経験ができる、苦手な相手とは離れることができるなどが挙げられます。

反面、新たな人間関係になじめずストレスがたまり、前のクラスの仲良しグループが休憩時間に集まるといった光景も見られ、新たな環境が定着するのは春の大型連休明けともいわれます。

◇「席替え」は担任の裁量で随時

一方、教室内の「席替え」は担任の裁量で、少なくとも各学期に1回、クラスによっては年に数回行われます。

席替えは単なる机の移動ではなく、左右・前後に座る児童生徒が互いに刺激し合い、机の向きを変えてグループでの話し合いや共同での作業を行うなど、多様な授業展開が可能になります。

先生たちは席替えの効果が生まれるよう工夫をしており、ある先生は、生徒の投票で何人かの班長を選び、班長を中心にした話し合いでチームを組むといった、リーダーシップとチームワークが発揮できる方法をとっているといいます。

日々のふれあいから、協力したり相談したり競い合える友だちができ一人一人が成長していってこそ意味があり、それをいかに円滑に行うかが担任の「学級経営」の腕の見せ所ともいえます。

◇個々の特性や人間関係に配慮

クラス替えや席替えは、一人一人の特性や人間関係を把握した上でのきめ細かい配慮が不可欠です。

視力、聴力に難がある子、発達障害や学習障害など特別な配慮が必要な子、外国籍の子への対応、双子や親戚関係の児童の扱いも考慮が必要な要素です。

いじめや不登校など指導上の課題がある場合はクラスを別にしたり、席を離したり、担任が手厚く対応できる席順にすることなどが必要です。目立たない子や孤立しがちな子の“居場所”を作ることも大切です。また子ども同士や教師との“相性”が合わないケースにも学級編成や席決めで配慮することが必要です。

年に一度のクラス替えで対処できない場合は、次の年に申し送りすることも学校全体としては大事なことです。

◇友だち、何人できたかな？

「友だち何人？」と期待をもって入学する児童が中学卒業までの9年間で、クラス替え・席替えを何度経験し、何人の先生と出会うことになるのでしょう。

たまたま属した学級、隣り合った級友が毎日の学習環境となります。個人も、班も、学級も、学年も、子どもが学び、成長していくのに欠かせない単位です。

そして一人一人が落ち着いて学習できる環境を作るのが先生の務めです。先生たちは、それまでの経験から成功例も反省点や教訓もたくさん持っています。

3月は教員の異動の時期です。同じ学校に留まるにしても別の学校に移ることになっても、指導経験から得た蓄積と、同僚や前任の先生からの引継ぎを生かして、一人一人が成長していける学級経営に当たってほしいものです。

＜異動のお知らせ＞

＊文責：勝間康人（教育研究所）

この度の異動で4名の職員が離任します。

坂本　久恵所長は、本庁（会計課）へ、渡会　紀和先生（教育研究所）は、清水中学校へ、田村　雅宏さん（こども家庭センター）と私勝間は、今年度をもって退職することになりました。

渡会先生には、2年間研究員として教育課題の調査・研究、授業支援等、田村さんには、7年間児童虐待防止対策コーディネーターとして虐待の発生予防と早期発見、発生時の対応等に携わっていただきました。本当に御苦労様でした。

私は、11年間主任研究員としてお世話になり、主に教育研究所主管全般統括等に携わらせていただきました。

任期中は、教育委員会をはじめ学校、関係機関の御理解と御支援を賜りながら様々な事業に取り組み、多くの出会いと知見を広げることができました。本当にありがとうございました。

149年の歴史に幕を閉じる足摺岬小学校